都城市議会議長　様

提出日　令和４年８月２９日

議会改革特別委員会行政視察報告書

報告者　　黒木　優一

１　委員会名及び視察者名

◆議会改革特別委員会
◆視察者
委 員 長：黒木優一
委　　員：広瀬功三　森理恵　楠見千穂子　坂元唱子　成合円美佳

２　視察先・テーマ及び日時

■日　時：令和４年８月２４日（水）　１３：００～１４：４５
■テーマ：「政策形成の取組みについて」
■視察先：延岡市議会
■説明者：本部仁俊　議長（挨拶）
事務局　須藤克彦　議事係長

３　視察の内容

（１）政策提言議員協議会について

① 政策提言を行うに至った経緯
② 政策提言実施の流れ
③ 意見・要望の集約方法
④ 課題等に関する議員間の共通認識の手法
⑤ 政策提言後の検証
⑥ 今後の在り方

（２）議会活動報告会（意見交換会）について

① 開催根拠
② 開催地区・開催会場
③ 開催までの流れ
④ 周知方法
⑤ 開催方法
⑥ 開催実績

⑦ 今後の課題
⑧ 若年層との意見交換
⑨ シティミーティング

4　感想等（別紙添付）

別紙

報告者　黒木　優一

１　視察の成果、及び市政への反映感想等

（１）政策提言議員協議会について

市長に対する政策提言は、政党や会派単位で行っていたが、議会と市当局が共通認識を持ち、政策を検証する機会として、正副議長及び会派代表者と市長・副市長による意見交換会を行い、議会が政策形成に参画することを目的とし、平成１７年度から始まった。

平成２０年度からは、政策提言議員協議会とし、行政側のメンバーは必要に応じて出席できるように改正された。

また、２３年度に委員会構成を見直し、各会派からの委員を２名ずつとし、幹事会を設けた。テーマ設定方法を全議員会から出してもらい幹事会でまとめ、最終的に協議会全体で決定する。スケジュール１年サイクルとなっている。

政策提言議員協議会については、議会の総意を市政に反映させる取り組みとして、機能しておりいいことだと感じた。

本市では各常任委員会で、政策提言を２年サイクルで行うようになっている。

今後、延岡市議会の例も参考にしながら、新たに考えていきたい。

（２）議会活動報告会（意見交換会）について

市民からの意見・要望の集約は、議会活動報告会、区長連絡協議会との意見交換会、シティミーティング及び市ホームページ等の市民の声の議会宛のもので行っている。

このことについては、本市と同様の取り組みだと感じたが、若年層とのシティミーティングは良いことだと感じ、本市でも同様のことを進めていくべきだと感じた。

報告者　広瀬 功三

１　視察による結果及び感想について

① 政策提言協議会の取り組み状況

延岡市の政策提言の取組みは平成１７年度から始まっている。当初は正副議長、各会派代表者と市長、副市長との意見交換会を開催していたが、平成２０年度に政策提言議員協議会を設置し、当局の政策立案及び改善に向けて提言している。平成２３年度に政策提言のテーマ決定について全議員から案を出してもらい、最終的に協議会で決定する仕組みに見直している。

● 政策提言のテーマ決定から提言までの期間が短いと感じた。全議員からのテーマ提出から決定にいたる間に会派持ち帰りの協議が多く、このプロセスに約３ヶ月かけている。このため提言書提出までの調査・検討作業を密な日程で行なわざるを得ないと思われる。

全議員が政策提言に集中する仕組みと、提言までの充分な調査・検討を担保するスケジュール設定が必要だと感じた。

② 議会活動報告会（意見交換会）の取り組み状況

「議会報告会」実施状況については、本市議会との大きな相違はないと思われるが、令和３年度はテーマを決めて意見交換会の時間を長く取って開催している。また、この一環として平成２７年度から若年層との意見交換会を開催している。また、政策形成能力の強化や市民との協働の視点から市内関係団体との「シティミーティング」を平成２１年度から開催している。

● 令和３年度に議会報告会の中で意見交換の時間を長く取るといった工夫は本市の取組みと重なる。「広報」から「広聴」・「意見交換」への重点化は、議会の任務を考えれば必然的な流れだと感じた。

２　成果の反映等について

政策提言のテーマ決定のプロセスについては、常任委員会の所管事務調査のテーマ決定のプロセスをリンクさせることが重要だと考える。また、常任委員会の所管事務調査のテーマを委員の考えによるものだけではなく、委員会構成時に会派内で充分検討し全議員への政策提言の意識付けを行なう必要があると考える。

なお、４常任委員会のテーマをそのまま議会の政策提言とするのではなく、議会として絞る作業は、議会の政策提言の力点を明確にすることで当局の取組みを追跡する上でも必須になると考える。

テーマ決定から報告までの期間については、現在の本議会の常任委員会の所管事務調査と合わせて２年以内とし、必要であれば短縮することも想定し柔軟

な運用が必要である。

　いずれにしても、体制、議員の関わり、スケジュール、市民との協働など、政策提言に必要な事項を抽出しシステム構築を検討する必要がある。また同時に、政策提言に議会として集中して取組むために、現在 本市議会の持つ仕組みと経験をシステムに どう活かすか全議員への周知及び意見聴取が重要となる。

報告者　森　りえ

1　視察の感想

政策形成の取組みについて（延岡市議会）

①　延岡市議会政策提言議員協議会について

協議会のテーマについては各会派での協議の過程で生かされており、会派での協議の中で自由な意見が出されている　。

都城市の場合は常任委員会ごとに政策提言を作成したが、延岡市では委員会ごとの集約はされていなかった。

②　課題等に対する議員間の共通認識の手法について

〇延岡市議会では議員が共通のテーマに向けて調査・研究し、議員間で十分な討議を行うが主な議論の名は協議会の幹事会である。適宜、会派持ち帰りによる協議を行っている。

〇関係部局との連携は幹事会に参加してもらって調査や意見交換を行っている。都城市で作成したときは関係部署とのやり取りはあまりされていなかった。

③　政策討論会の在り方について

議員同士の討論会や外部からの参加があるので深められるのではないだろうか。

④　議会活動報告会（意見交換会）について

〇若年層との意見交換

九州保健福祉大学生との意見交換会や高校生との意見交換会はギア期からの申し入れだったが、九州保健福祉大学については定例化しているとのことだった。公共は授業という形で開催している。支援学校はこれから開催予定である。

〇シティミーティング

シティミーティングの公募は行っていないとのことだった。先方からの申し入れで行われている。都城市の場合は宣伝不足か。

⑤　政策提言後の検証方法について

市長との意見交換会は年１回の実施。関係部局については幹事会での調査や意見交換進捗状況から、「実施済み」「実施中」「検討中」「現時点で実施予定なし」の評価を行っている。予算執行状況が重要な判断材料である。

2　視察の成果及び市政への反映等

市政の課題を共有するためには、会派での協議の中から出された意見からテーマが絞られていることはいいと思う。

政策提言の検証がなされており、その手法もはっきりしている。提言を出したままにせず、協議会等で確認するといい。

市民との意見交換会は回を重ねているので、公募していないのはいい。南九大や市内の高校との意見交換介護できるよう手立てをとる必要がある。

報告者　楠見　千穂子

1. 視察の感想

延岡市議会側の参加者は、議長及び議会事務局の 5 名出席していただきました。都城からは議会改革特別委員会から 6 名、議会事務局から 1 名出席しました。

市議会政策提言議員協議会が平成 20 年度設立され、1 年間をかけてじっくり調査、研究し十分協議を重ねた提言を行う。市長との意見交換会を実施、議会活動報告会は 2 年かけて 11 地区を回り最後にアンケートを実施回収している。市のホームページなどの市民の声に寄せられた議会宛ての要望等のものは各会派等への周知を行う。年々参加者が減少して周知方法や報告内容の工夫が必要と課題まで話された。延岡商業高校、延岡工業高校等、若年層との意見交換を行っている等、紹介された。

政策提言議員協議会の提言項目に関する検証もされており、市議会の機能が円滑に働いていると感じました。

政策提言後の検証方法についてもう少し、詳しく聞きたかった。

議会構成、委員会の所管事務調査のテーマ、直近の定例会での議決内容を常任委員会ごとに報告した後に報告に対する参加者からの質疑や報告内容以外も含めた意見交換を行っていることも詳しく聞きたかった。

2. 視察の成果及び本市議会への反映など

議会から学校へ出向き大学生や高校生との意見交換会の実施は参考になった。都城市には大学、高校なども数校あるので実施したいと思います。

報告者　坂元唱子

1、視察の感想

延岡市議会では、政策提言議員協議会についてと議会活動報告会（意見交換会）について視察を行った。

政策提言議員協議会については、平成 17 年度より政策意見交換会としてスタートし、平成 20 年に設立されている。より多くの議員が参画し、より充実した提言ができるようにと一部見直しも行い現在に至っているとの事。

提言のテーマの案を全議員から出してもらい、幹事会でとりまとめ最終的には協議会全体で協議し、テーマを決定するとの事。全議員からテーマを出してもらうため、何度も会派に持ち帰り協議を繰り返し、2 項目になるまで絞り込むのに 3 か月半ほどかかるとの事だった。より多くの意見を聴くことは大切だが、テーマ決定までに時間がかかりすぎるのが課題だと感じた。

提言後の検証は、任期中 3 年間の提言項目に関する市当局の所管課への調査を行い、評価シートを使用し「実施済」「実施中」「検討中」「現時点で実施予定なし」の 4 段階で評価されていて、とても分かりやすく参考になった。

議会報告会については、毎年 1 回以上定期的に開催していて、405 の区が地域ごとに 11 の地区を構成しており、2 年間で全ての地区を回り、任期中に各地区 2 回ずつ開催している。特に平成 27 年度から議会報告会の一環として、若年層と意見交換会をされていて、九州保健福祉大学とは定例化し、毎年行われている。高校生については、毎年、対象校を変え、県立高校に至っては一巡したため、今年度と来年度は私立高校と行う予定との事。

特別支援学校については、毎年、議場見学を行っているとの事で、若年層との意見交換会はとても参考になった。（コロナ禍で令和 2 年度は開催されていない）

2、視察の成果及び本市議会への反映等

当議会でも、市民のために全議員が共通のテーマをもって、研究・調査を行い、政策提言することは必要だと思う。そのためにも延岡市議会が設立した政策提言議員協議会は、とても参考になった。

また、議会報告会の一環として行っている高校生との意見交換会は、授業として行う形式で行われていて、若者の投票率向上にもつながるのではないかと感じ、当議会でも反映していくべきと思う。

報告者　成合円美佳

１、　視察の感想報告書

延岡市議会も本市議会と同様に、平成 17 年～19 年度に、議会の総意として項目を絞った提言を行うために、正副議長、会派代表者による政策意見交換会を年 3 回実施することにいたった経緯が分かった。会の構成には、当局側である市長や助役（副市長）も参加しているので、議会の介入に対して受容的な執行部であることが伺えた。

その後、平成 20 年に政策意見交換会の取組を充実・強化するために、議長を会長とする政策提言議会議員協議会が設立している。正式な協議会の設立により、要綱が作成され、政策提言書の提出やフォロー体制などについても確固たるものとなったことが伺えた。

さらに平成 23 年度には政策提言協議会の運営を一部見直し、各会派から幹事となる委員を１名ずつ増員させ、より多くの議員が参画できるようにした点も良いと思った。

テーマの設定においても、会派の代表者ではない、別の幹事という役割が、全議員から広くテーマの案を出してもらい、幹事会を開いて取りまとめ、それを最終的に協議会全体で協議して決定してるということで、期数などに関わらずとりまとめる側になれたり、たとえ会派に所属していない議員もテーマの提出ができたりするというのは魅力的だと感じた。

その他にも、議員間で十分な討議を行うことや、当局と幹事会との意見交換、市長と協議会全員との意見交換会など、とにかく本会議や委員会以外での執行部と議会との接触が多いのがうらやましいと思った。

議会報告会については、延岡市議会も本市議会と同様に、開催地区数や参加人数の減少が顕著に見られ、スクール形式による一方的な議員からの報告はマンネリ化している。一方で、若年層との意見交換会は毎年１、２回参加しており、九州保健福祉大学や県立高校を対象に実施している。高校においては毎度２００人規模なので、広聴となっていることが伺える。その他、シティミーティングという名目で、様々な市民団体と協議を行っていることが分かった。

２、　視察の成果及び本市議会への反映等

本市議会においても、政策意見交換会から始め、政策提言協議会に移行するか、議会改革委員会から政策提言協議会に移行するかのどちらでもいいので、テーマをしぼった議員間討議と、それを執行部側に提出できるルートづくりを徹底したい。また、議会報告会においては、聞く市民が十数人とかであれば、広聴はおろか広報にもなっていないなら、やめてしまったほうがいい。

本市議会は変に選挙を意識して、市民との距離を保っている気がしてならない。広報広聴委員会で祭りに出ようという時でさえも、議員全員が平等であるようにとか、出た議員が熱意があると思われないようにとか、逆に意識し過ぎて気持ちが悪

かった。議会報告会で地元の議員は避けるという考えも私には理解できない。そもそも議員に地元とかはあってはならない。それをあえて避ければ、意識している証明になってしまう。

本市にも南九州大学があるのだから、ダメでもともとな気持ちで大学側に意見交換会の機会を打診してみるとか、議員のなかには子育て世代や孫がいる世代もいるはずなので、繋がりを有効活用し、高校などとも交流できる市議会へと生まれ変わりたい。